

健康

子宮頸がん

質問

子宮がん検診を受ける際、ヒトパピローウイルス(HPV)検査を勧められます。HPV検査は自費検査とのことですが、必要ですか。



西村 正人

徳島大学病院周産母子センター講師

回答

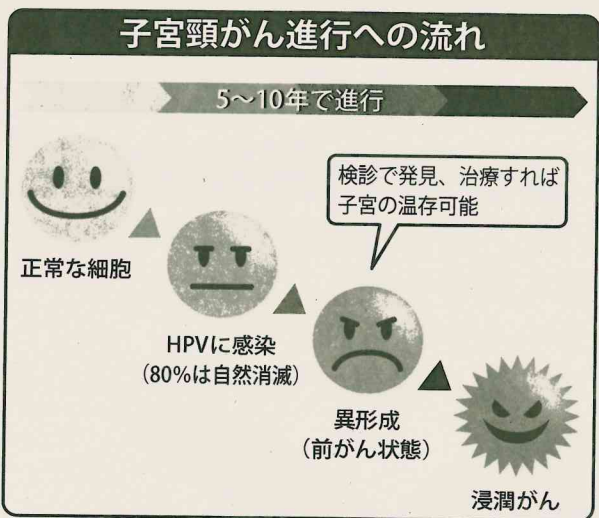
子宮頸がんは怖い病気ではありません。簡単な検査で早期発見できる数少ないがんです。子宮頸がんは、極めてまれな例を除き、HPV感染から始まります。感染したHPVの80%は自然に消失します。しかし、20%は持続感染します。

HPVに持続感染した細胞は、軽度異形成という前がん状態に進みます。軽度異形成の半数は自然に治ります。しかし、治らない場合は5~10年かけ、高度異形成を経て浸潤がんに行進することがあります。子宮頸部異形成になっても不正出血や痛みといった症状は全くありません。出血が始まるのは浸潤がんになってからです。症状がないからといって安心してきません。

簡単な検査で早期発見



子宮頸がん検診は、20歳になったら2年ごとに受けるよう市町村から通知が届きます。2年ごとに検診を受けていると、異形成の段階で発見できます。子宮を温存する軽い治療で対応が可能です。



す。検診は子宮頸部から細胞を採取し、異常な細胞がないかを調べます。正確に診断できる確率は90%程度。10%程度は異常が検出できない場合があります。

細胞検診の欠点を補う検査が、HPV検査です。HPV検査も子宮頸部から細胞を採取し、HPVがいるかどうかを調べます。HPV検査は細胞検診より精度が高く、99%以上の確率で正確に診断できます。HPVが陰性なら子宮頸がんの心配はありません。

米国では、21~29歳は3年ごとの細胞検診が勧められ、30~64歳はHPV感染がないと確認できた場合、次の検査は5年後でいいとされています。これはHPV陰性か

子宮頸がんの撲滅には、予防と早期発見が必要です。しかし、予防の子宮頸がんワクチンが十分に普及していない日本では、異常が始まった早期の段階で正確に発見するしかありません。

私が診察した経験でも、子宮頸がんで子宮を摘出することになり妊娠できなくなった患者や、命を落とした20~30代の患者は多く、40~80代で治療している患者は、さらにたくさんいます。

検診で早期発見が可能な子宮頸がんで亡くなることのないよう、子宮頸がん検診を定期的に受けてほしいと思います。20代は細胞検診を、30歳以上はHPV検査の併用を考えると良さそうです。

(第4土曜掲載)

30歳以上HPV診断を